

会 議 録

1 会議名

平成 29 年度 3 回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) H29 年度 地域活動支援事業について（公開）

①プレゼンテーションと個別質問への回答（12 団体）

3 開催日時

平成 29 年 5 月 25 日（木）午後 6 時から午後 9 時 5 分まで

4 開催場所

上越市役所木田庁舎 4 階 401 会議室

5 傍聴人の数

2 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：安楽 大、今井 孝、太田一巳、大竹明德（副会長）、加藤幸吉、佐藤美奈子
 渋谷 俊（副会長）、田沢 浩、谷 健一、新野武宣、野澤武憲、藤田晴子
 星野 剛、松田光代、吉田幸造（会長）、吉田 実、鷲澤和省（欠席 3 人）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【野口係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉田会長】

- ・会議録の確認：野澤委員に依頼
 次第 2 議題「(1) H29 年度地域活動支援事業について『プレゼンテーションと個別質問への回答』」に入る。進行は事務局にお願いしたいと思うがよいか。

(「よし」の声)

【野口係長】

- ・プレゼンテーションの方法について説明
- ・「春-1 小学生の音楽による地域の絆づくり支援事業」の事業概要について説明

【春-1提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「事業費全額を支援事業からの購入となっておりますが、他の資金からの充当はできないのでしょうか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、他の資金は違う使いみちや縛りがあり、楽器になるとかなり高額になるので、資金が足りていない。また、部員も増えているのだが、古い楽器や数が足りていないので、飯小学校や城東中学校から期間限定で借りて行っている。金管楽器を打楽器等で代用したりして工夫もしながら運営している状況である。

質問2「楽器を一括購入しなければならない理由をお教えてください。また、分割購入が可能な場合は、何年くらいで揃えることができますか。」については、分割購入でも何でも、できる限り揃えたいと思う。借りている楽器は返さなければいけないので、その分くらいは必要で、残りの部分は来年以降に分割でも対応していきたいと考えている。分割購入については、優先順位は①②③でお願いしたい。

質問3「今後の楽器整備計画をお教えてください。」は、古い楽器を修理しながらやっているが、修理に出したときに使っている楽器の在庫がないために、練習ができない。5・6年生で共有している楽器もあるので、是非足りない分の①②③希望までお願いしたい。楽器がない児童は、打楽器や音楽の授業で使っているものを回して、吹奏楽で使っている。

質問4「古い楽器の取り扱いをお教えてください。(修繕、廃棄などの指針と費用発生の場合はその財源など)」廃棄予定のものは市が大型備品で廃棄している。今は廃棄対象の楽器も使わないと足りない状態なので、しばらくは廃棄予定の楽器も使いながら、新しい楽器が入ってきた段階で予備に取っておく分と、本当に使えない楽器は廃棄というところで進めている。

— 提案者退席 —

【野口係長】

- ・「春-4 木田新田町内活性化事業」の事業概要について説明

【春-4提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「町内行事による賑わいの創出につながると考えますが、町内会での購入や助成は考えられませんか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、90世帯の町内で、事業所は1件もないので、町内会費が月2千円と高いが、町内会費だけで賄っている。町内会館の屋根や外壁が壊れた場合の修理に必要ということで、積み立てをしている。

— 提案者退席 —

【野口係長】

- ・「春-5 春日山城跡松林の保全等支援事業」
- ・「春-13 春日山城跡監物堀（総構部分）遊歩道整備等の事業」の事業概要について説明

【春-5、13提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・春-5への質問の回答

質問1「今後の植樹について、具体的な計画がありましたら、お教えてください。」については、まずは春日山城跡の入り口なので、観光スポットとしての相撲場付近の枯れた松の補植を今年度でひと区切りする予定である。他の場所の松の植樹については今後どのようにしていくのか検討する課題だと思っている。私たちだけが考える課題ではないので、教育委員会等と相談していきたいと考えている。教育委員会は春日山城跡の植生についてどのような植物や木を植えたらよいのか調査しているとしている。私たちとしては、二の丸や三の丸を含めて、本丸から見て東南面の崖部分等を含めたところに、紅葉、楓の植樹を提起しているところである。今年度もお願いしたいと思っていたが、教育委員会では、植樹をどういうふうにするのか検討した上で、やって欲しいということである。紅葉は崖崩れ防止になるし、春夏秋ともに綺麗で、あまり大きくならないので、城郭等もよく見えるかたちで植樹をしていきたいし、景観上からも最適である。したがって、教育委員会の検討を早急にやっていただいて、来年度から試験的に実施していく計画である。したがって、松の植樹に関しては今年度でひ

と区切りをつけるということである。

・春-13への質問の回答

質問1「提案事業の一部を、次年度に回すことはできますか。できる場合には、その内容を具体的にお教えてください。できない場合には、その理由をお聞かせください。」については、遊歩道工事ができても案内看板や、標識看板がなければ遊歩道の存在や行先が分からなくなる。そうなれば利用者も少なくなってしまうことから、一体的な事業と考えている。花畑の排水路の改修は次年度でも可能かと思っている。菜の花畑については、協議会としての出費を考えていくこともできると考える。

質問2「今年度事業について、今後の保存方法と活用方法をお教えてください。」については、遊歩道の問題については、草刈りである。協議会としての年3回の草刈りをやっていきたい。途中でどうしても必要だということになれば、協議会の役員自らが草刈りをやったりする。また、草刈り組合もあるので、教育委員会にも要請して保存整備をしていきたいと思っている。活用方法としては、「散策マップ」を活用して観光客への周知や、町内会長協議会と連携して町内回覧等をして宣伝していく。また、春日小学校や春日中学校の子どもたちが、いろいろなかたちで春日山に出掛けているので、登るときのツールとして活用していただけたらと思っている。子どもたちが春日山を愛する気持ちが非常に強く生まれてきているので、そこを大事にしながらやっていきたい。

5月11日に松葉カキの1回目を行ったが、次は先生の手を煩わせないで、子どもたちと私が話合っって計画を立て、子どもたち自ら実施をするという、自主自立の精神が生まれてきている。自分たちで計画して自分たちで春日山を保存しているという意識を持つことはとても大切である。特に、春日中学校の生徒は、私たちが言わなくても一定程度の人数が集まれば、生徒会が皆で登って地ならし作業をしたりしている。そういう心が芽生えていることを私たちも大切にしたい。地域協議会の皆さんも、子どもたちを育てる意味でも自主的審議の課題として、春日山を今後どうしたらよいかと、子どもたちとも一緒に考えながら、春日地域を底上げしていただきたい。春日山を愛する、謙信公を愛する子どもたちの育成を私たちは提供していきたい。

— 提案者退席 —

【野口係長】

・「春-7 未来のバレーボール選手の育成及び青少年健全育成事業」の事業概要につい

て説明

【春-7提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「ユニフォームについて、個人負担による購入はできませんか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、基本的にユニフォームはチームの持ち物ということで昔から扱ってきている。なぜできないかということは、バレーボールのユニフォームは、番号はプリントされていて取り外しができないので、番号が変わるたびに保護者から購入していただかなければいけなくなることになる。チームで12枚あれば着回しが十分可能なので、これを交代で使っていきたい。

どうしても個人購入とすると、廃版になるスピードが速いので、買い替えようとするときに、同じものがないと言われることがあるので、個人負担は非常に厳しいと考えている。

質問2「指導者資格取得については個人に帰属するものとして、個人負担はできませんか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、バレーボールに関しては指導者資格がないと試合に参加することが不可能になってきている。我々2人は資格を自腹で取ってきている。今後1チームに指導者資格者を2人置きなさいということがさきや囁かれています、私は男子を担当し、彼は女子を担当しているのだが、2人で試合に行くことができない。必ず、男女でもう1人ずつ必要になる。私も彼も仕事の都合等で出られない場合もあるので、もう2人資格を取っておかないと試合に参加できなくなる。さらに、資格の更新ということで、4年に1回は講習を受けなければならず厳しい現状になってきている。新潟県内だけで講習会が行われることはないもので、そういった場合の交通費等も掛かるのでご理解いただきたい。

質問3「トレーニング用品、予備費について、それぞれ具体的に内容をお教えてください。」については、学校によってトレーニング器具が揃っているものと揃っていないものがある。子どもたちの基礎体力を上げるために、ラダーやミニハーフを購入させていただきたい。予備費に関しては県大会等に行くときに補てんさせていただきたい。昨年度の県大会は佐渡で行われ、保護者負担で行ってきた。よろしくお願ひしたい。

— 提案者退席 —

【野口係長】

・「春-8 春日区の交通安全のための交通安全推進活動並びに交差点関連路面標示修繕事業」の事業概要について説明

【春-8提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「交通安全協会費を任意で徴収し、同様の修繕活動などを行われ、財政的にも余裕があるよううかがえますが、当補助金事業を希望される理由をお聞かせください。」については、提出してある業務計画書、予算書のとおり金の使いみちは全て決まっている。予算総会で文章を配布したうえで、説明し承認されている。決算総会では業務結果報告、決算報告をして承認されているし、業務結果報告書、決算書も提出してある。

質問2「路面表示修繕は、市道路課または県公安委員会からの委託なのでしょうか。あるいは、町内の自主的な判断による点検結果により行っているのでしょうか。」については、各町内会からの要望に基づき、執行部で实地踏査をし、修繕の必要性が認められないものは却下したうえで、実施箇所を決定している。公安委員会規制のものは、上越警察署に要請し修繕してもらい、警察予算の関係で実施できないものについて地域活動支援事業で提案した。その他は、担当部署である市民安全課とも協議したが、市民安全課で予算がなく実施できないので、交通安全協会の事業として提案した。区画線は道路課担当だが、これは交通安全協会の事業として不適當なので実施しない。ちなみに各町内会からの要望箇所は、提案したものよりも約5割増しである。

質問3「工事内訳書に記載のある箇所は、行政では実施しない箇所であると決まっていますか。行政が実施しない場合は、その理由をご存知の範囲で結構ですのでお教えてください。」については、上越警察署交通課、市民安全課、道路課、下水道建設課と協議済みである。行政で実施しないものについて提案した。交差点関連路面標示修繕、は交通安全協会の利益のためにやっているものではなく、町内会からの要望により、地域住民のためにやる事業である。

— 提案者退席 —

【野口係長】

・「春-9 安全に安心して暮らせるまちづくり事業（防犯パトロール）」の事業概要について説明

【春-9提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「帽子について、どうしても今年度460個の調達が必要な理由をお教えてください。」については、昨年300個採択していただいたが、3年間で一丁目、二丁目、三丁目の全部を揃えたいと思っている。春日山町一丁目は568所帯で高齢者や弱者を除いても560個は必要である。二丁目は314所帯だが、隊員のみなので10人増を見込んで10個。三丁目は331所帯だが、高齢者弱者を除いて、325個必要とみていて、合計895個必要である。約900個だが、去年は300個採択いただいたので、今年度と来年度で300個ずつなのだが、既に配布されているものがあるので、なるべく早めに多くの方に配布したいということで提案した。

質問2「のぼり旗について、昨年度も当補助事業で購入していらっしゃいますが、材質を改善して長期的に活用できないものでしょうか。できる場合は、どれくらいの費用増につながりますか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、のぼり旗の材質については全て同じだそうだ。それ以上良質のものとすると、看板になるそうで、看板だと設置場所等の問題があるので、今のところは無理である。また、アルミの棒もあるのだが今の3倍の単価だそうだ。

質問3「備品管理について、どのように行われていますか。つまり、破損数量、交換数量などの把握はできていますか。できている場合は、その保有状況をお教えてください。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、一丁目、二丁目、三丁目のそれぞれの町内会に任せてある。町内会館に保管されている。破損した場合や、色あせた場合は、町内会館の事務員さんに話して交換している。旗の数は、今は177か所立ててあるので、1回全部交換すると、177枚必要になる。

一丁目は旗が65か所に立っており、旗の残が18枚、棒の在庫が25本、誘導灯が10本、ライトが6個保管されている。二丁目は旗が46か所に立っていて、旗が21枚の残、棒が18本残、誘導灯が3本、ライトが6個である。三丁目は旗が66か所に立っていて、旗が24枚残、棒が22本残、誘導灯が15本残、ライトが6個となっている。

質問4「各ブロックで実際に活動している人数を改めてお示してください。(H28年度の実績報告書にて添付の資料がありますが、詳細をお教えてください)」については、平成28年度の報告にも誤りがあったので、それも含めてここで訂正したい。一丁目は275回

の実施予定で、実際実施したのは261回、未実施が14回、参加人員は522人で94.9パーセントの実施率である。二丁目は84回の予定中84回実施し、参加者は311人。パトロール隊ということで雨天の場合は翌日行うこととなっている。三丁目は590回の予定だが、1日2つの班がやる場合があるので日数よりも多くなっているが、513回の実施、未実施が77回、参加人数が2,210人で87パーセントである。合計3,043人がパトロールに参加しており、子ども79人も含まれている。

— 提案者退席 10分間休憩 —

【野口係長】

- ・「春-10 高齢者の生きがづくりと地域交流事業」の事業概要について説明

【春-10提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「送迎について、なぜタクシーを利用するのですか。その理由をお聞かせください。ホテルの送迎バスで対応できませんか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、事業は2つあり、歌声列車はホテルの送迎をお願いしているが、大学でのコンサートは、大学へ直接行くバスがないし、皆さん足の具合が悪いので、最寄り駅の春日山駅から大学までの距離はタクシーを利用したい。

質問2「3回実施する歌声列車について、各回における参加者が支払う参加費（食事代・入浴代を除く）を教えてください。もし、自己負担がない場合は、その理由をお聞かせください。」については、自己負担は妙高高原の香風館で食事するのも含めると1人4,000円になる。専門のヘルパーや看護師を付けて対応しているので、日当が発生している。

質問3「写真代は、個人負担で対応できませんか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、記録としてのみであれば、代金はいらぬ。年金暮らしの人が多いため、写真代でも負担になるし、写真を見ることで楽しい気持ちを持続できるかと思っただ、なくても大丈夫である。

— 提案者退席 —

【野口係長】

- ・「春-11 大学前仲間づくりと生きがづくり交流サロン事業」の事業概要について説明

【春-11提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「町内会単位の事業なので、町内会会計からの補助はありませんか。ない場合は、その理由をお教えてください。」については、町内会からは助成金3万円を、平成27年度、平成28年度にいただいた。平成29年度も予算措置もしたのでいただけると思う。

質問2「休憩と送迎バスにかかる費用について、それぞれの内容を詳しくお教えてください。」については、くわどり湯ったり村では、大広間が1時間3,500円の単価で、5時間で1万7,500円、送迎バスは8,050円となっている。キューピットバレーは大広間が1万5千円ということで、20人で割ると1人当たり750円の席料、バスも1万円だが20人で割ると1人当たり500円となる。

質問3「写真代(6,000円)の具体的な使い道を教えてください。」については、大判25人と想定して2,700円。残り小さい写真は41円でいくと、80枚になる。行事の度に4から5枚の記録写真を撮って残したいと思っているので、ご理解いただきたい。

— 提案者退席 —

【野口係長】

- ・「春-16 上杉謙信公から学ぶこどもの健全育成事業」の事業概要について説明

【春-16提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「試着体験、甲冑の保管・管理方法は、どのように計画していらっしゃいますか。」については、主に謙信交流館に展示保管することで、協議が進んでいる。あとは春日小学校や高志小学校、春日保育園などに鍵付きの亚克力ケースに入れて展示・保管する予定である。あとは現場で実際にケースの実物によって置く場所は決めさせていただくことで協議が進んでいる。

質問2「一義会など、他の団体と連携することで、甲冑の有効活用を図ることはできますか。できる場合、具体的な連携内容をお教えてください。できない場合は、その理由をお聞かせください。」については、一義会は武帝式を行う目的の事業ではないのかと思っている。また、甲冑は各自で管理して活動していると思うので、甲冑の貸し出しや展示は行っていないのではないかと思います。貸し出しは目的と反して使うことにな

るため目的外使用に当たるのではないかと思うが、詳しくはわからない。あとは武帝式などのイベントで、一緒に写真を撮るのは可能だった。おもてなし武将隊とは、イベント会場で試着体験ができたらいので、是非連携してやりたいということは協議済みで、私どももそうしていきたいと思っている。

質問3「甲冑の相見積を徴すことはできますか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、見積もりを取ったところは、謙信公祭の甲冑のレンタルや祭りの進行を行っている丸武産業というところだ。今回申請の上杉軍の副将クラスの甲冑は全て受注生産で、丸武産業のオリジナルのものである。他社から似たような見積もりを取っても、同じ仕様ではないので比較のしようがないのである。

質問4「事業の最終形はどのように内容になりますか。また、それを達成させるための予算と、今後の年次計画をお教えてください。」については、今回申請した武将2領、子ども1領、足軽2領である。これらは試着体験には最低限以上必要だと思っている。甲冑ができれば、謙信交流館なり小学校などで試着体験を定期的に行う予定である。

最終目標は、謙信公祭に子ども武者として自ら進んで参加できるような子どもをたくさんつくること。地域の下級生等に御家訓とともに一緒に引き継いでいくことを地元で伝統行事にすることが目的である。

質問5「謙信公の家訓について、子供たちが親しめるように、子ども向けに読みやすくするほか、どのような工夫をされていますか。」については、おもてなし武将隊の謙信公に御家訓の読み聞かせを動画にて制作してもらうことは可能だということで協議済みで、行いたいと思っている。また英語版も、甲冑を着た外国人に読んでもらう動画を現在制作中である。YouTubeなどの動画で発信することで、海外の謙信公ファンにも効果が期待できると思う。外国の方も謙信公の御家訓についても、深いファンが多いのでこれを機会に世界に発信できると思っている。

— 提案者退席 —

【野口係長】

- ・「春-17 『コミュニティガーデン』整備活用事業」の事業概要について説明

【春-17提案者】

- ・提案事業についてプレゼンテーション
- ・個別質問への回答

質問1「不耕作地について、地主より活動の趣旨を理解していただき、無償で借り受

けることはできませんか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、地主の方から活動の趣旨を理解して無償でいいと申し出ていただいているが、会の判断で無償とはいかないだろうということで、予算計上させていただいた。無償で借り受けるか、会で費用を負担する等所要の調整をして、今回の提案からは削除したいと思っている。

質問2「参加賞について、どのような趣旨で計上しているのですか。具体的にお教えてください。」については、植え方体験会、収穫体験会のイベントについて、より多くの方に参加していただけるよう、参加賞として1人200円の予算でメイドイン上越の商品を配布したいということで、計上している。趣旨としては、より多くの方々に参加していただき、何かしらの参加賞として差し上げたいと思って計上している。

質問3「草刈について、委託せずに会の活動の一環として実施できないのですか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、草取りは会の活動の一環で、会員有志で都度実施しているが、面積が広いので人力だけでは賄いきれないのが実情である。景観を維持するために草刈り機等の機械による刈り払いに頼らざるを得ないのが実情である。よって、必要最小限の刈り払い費用を予算計上させていただいた。

質問4「講師の謝礼について、(減額や団体内メンバーによる指導に代える等)工夫はできませんか。できない場合は、その理由をお教えてください。」については、多くの方に参加していただき、子どもや女性、お年寄りなどに懇切親切に指導いただきたく、認定農業者を2人想定し、去年の経験から予算計上している。メンバーの中に認定農業者や、それに代わる経験豊富な方がいないので、外部からの認定農業者の2人予算計上した。植え方体験会や収穫体験会は、昨年度同様、講師を2人から1人に減額することは可能である。必要に応じて、1人ということで予算を修正させていただく。

質問5「参加者負担金を徴したり、団体の自己資金による歳入を充当しない理由を具体的にお教えてください。」については、今回提案している事業の主な目的は、耕作地をコミュニティガーデンとして整備活用することによって、地域住民の交流の場とすることである。参加者の方は体験と言えども、暑い中での作業、食育や生涯学習という教育の側面、地域交流などを重視した事業であり、より多くの方に参加していただきたいことから、参加者には受益者負担を求めない提案とした。また、当法人は、非営利型の一般社団法人であり、基本財産はなく、収益事業も行っていない。よって剰余金、余剰財産もほとんどないのが実情で、自ずと主な活動財源は会費収入、寄付金収

入、補助金収入の3つに頼らざるを得なくて、独自財源を見込んだ実施計画を立てにくいのが実情である。

— 提案者退席 —

【野口係長】

最後のプレゼンテーションを終わりにする。進行を会長に戻す。

【吉田会長】

これで、「(1) H29年度地域活動支援事業について『①プレゼンテーションと個別室
ン問への回答』」を全て終了した。

次に、「4その他」について事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・ 次回の協議会：6月6日（火）午後6時から 上越市役所 4階 402、403会議室
- ・ 6月1日までに「質問・回答一覧表」を郵送予定
- ・ 次回の審議方法を提案

【吉田会長】

事務局から分科会方式で意見をまとめながら、最後に全体会で意見交換をするのはどうかと提案があったが、皆さん方から意見等あればお願いします。

【今井委員】

そもそもどういう意見で何を交換するのかを決めておかないと、分科会も上手くいかないと思う。前回の分科会は効率も話の深まりもよかったので、分科会自体はよいと思うのだが、要は内容だと思う。今日のプレゼンテーションと質問の回答の結果を踏まえて、話すのはありだが、第5回の採択の会議までには第4回の会議しかない。次回の会議の意見交換の後に、採択のたたき台や方針を決める話合いを行いたいという希望があるがいかがか。

昨年度は時間もなかったもので、正副会長と事務局でたたき台を作り、採択に臨んだが、時間がない中で初めてたたき台を見て、どういうふうに丸めるかを話合う時間が足りなかった。たたき台を一気に作るのは無理かもしれないけど、そこまでの方針はできればよいと思う。意見交換はそれでよいと思うが、採択のときに何を基に採択をするのか。6月21日は時間も押し紛糾すること予想されるので、その前のために皆さんの意見を伺いたい。

【吉田実委員】

意見交換会は、何のためにやるのかを共通の認識にしなければいけない。昨年は20人中16人が新しい委員なので、理解不足のなかで採点しなければいけない状態だった。1件1件の提案で、過去に毎回提案されている事情等の補足説明が必要だと思う。提案されている事情を分からないで採点するのを避けるために、共通の認識を持つための意見交換会の場であり、1件1件の理解を深めた上で採点につなげるための会である。スピードアップのためには分科会でもよい。最後に全体会で分科会での発表をして、補足なりをしてまとめていただければよいのではないか。

採択する決め方を、この場で他の委員さんからも話してもらって、やり方・進め方をもう少し議論したらどうか。

【吉田会長】

事務局は、時間の延長は可能か。

【野口係長】

時間の延長はよい。他の委員さんが延長してもよければ、次回のために詰めていただけたらよいと思う。

【吉田会長】

午後9時を目途に延長して、皆さんの意見を伺いたいと思う。

【田沢委員】

分科会で詰めていくということであれば、何について決めるかの項目を出した方がよいと思う。今まで連続的に上がってきている提案をどういうふうに評価するか。金額の枠内に収まった場合にどうするのか。昨年度も減額することがあったが、マイナスする場合の合理性をどういうふうに共有化するのか。その辺は検討課題に値すると思う。

【今井委員】

先ほどのプレゼンテーションの中でも、金額を減らせるという団体もいくつかあった。提案団体のいうように減額する場合は、申請の金額が変わってくる。その数字を並べるのを、どういうかたちでやるかということになる。次回の意見交換会では採点票を未提出の状態、今日の結果を踏まえた回答を見て、今日欠席の委員も、それを読んで、意見を踏まえて採点になる。今回の結果をまとめる作業について、事務局はできるのか。

【野口係長】

プレゼンテーションでは金額の大きい削減額は出て来なかったもので、ほとんど変化はないように思う。採点結果の一覧表については、第4回の意見交換のあとで6月12日までに提出してもらおうというスケジュールが現状である。ただ、本日敢えて配布した採点票は、このようにイレギュラーなスケジュールを組みたいという意見があったら対応できるように配布した。ただ、欠席の委員分の一覧表を作って、皆さんに読んでいただき、採点后一覧表を作成するという現状のスケジュールは崩せないと思う。

【今井委員】

その流れが崩せないとなると、6月6日の意見交換のときには、採択のときの方針は考えることはできるが、採点をどのように反映させるかは見てみないと分からない。

昨年度は、採点結果のランキングだったが、今日と次回で、順位等で採択や不採択の方針が決められれば、最後には納得いくかたちになると思う。昨年度は採点結果を見て、どうするかだったが、採点結果を見なくてもある程度方針を決められるかどうかだ。私は方針を決めておけばよいと思えるが、方針は方針でよいのか、あるいは実際に採点結果を見てから考えたいのか、皆さんはどういう考えなのかが気になる。そこで採択決定の日の時間が変わってくると思う。

こだわって喋っているかということ、お金が絡むのもあるし、昨年度は時間の関係もあるし、意見がまとまらなかったのもあるので、結構焦った感じがした。

【大竹副会長】

意見交換会は、あくまでも採点のための意見交換会なので、そこを間違えないでいただきたい。

【鷺澤委員】

質問の回答やプレゼンテーションを聞いて、各自質問や意見を持ち寄って、皆で議論して、採点に反映させることが、次回の役目だと思う。私は、分科会だと全ての項目に意見を言ったりできないし、項目の3分の2は参加できない。分科会の発表後に、自由に意見交換できる流れと理解してよいか。

【野口係長】

先ほどの説明が浅かったので、申し訳なかったが、前回のように提案を3つに分かれ、全ての事業に対して少ない人数で議論していただく方針である。

【鷺澤委員】

分かった、それで結構である。

【谷委員】

採点結果をある程度、尊重して、前回のように全て減額採択するよりも、採点順位をより採択に反映させたほうがよいと思う。

【吉田実委員】

確認だが、3つに分かれて全提案を話合うが、まとめの時間はあるのか。20人が共通の認識を持ってもらいたい。バレーボールのユニフォームはチーム持ちなのに、個人持ちだと誤解して批判する委員が2期目の委員でもいたのだが、そういった誤解を解きたい。また、歴年やってきたら、自立をしてもらおう。サロン活動等も、地域として何が重要テーマで重要な活動なのか理解を深めていってもらいたい。様々な意見を言っていただいて、その上で各々の見解で採点をしていく。必要な内容を皆の話を聞きながら絞り込んでいき、時間があつたら採択のことを協議すればよいと思う。上位のものは満額採択で、下位のものは減額があるという程度が上等手段だと思う。

【今井委員】

今日のプレゼンテーションはよかった。書類だけだと分からないが、現物を見たりして、本人と会って話を聞いてよかった。

【吉田実委員】

私は前期から、プレゼンテーションをやりたかったのだが、委員の皆さんが賛成してくれなくて、実施できなかった。本来は全ての団体に来てもらうのがよいが、今後このようなかたちで続けてもらいたい。

【加藤委員】

次回は採点を付けるための意見交換だが、1提案につき20人のいろいろな意見が出ると思う。それをどのようにして、まとめていくのか疑問である。イメージが湧かないので、昨年度のようにたたき台を出してもらえると助かるのだが。今回の質問事項の一覧表をもらったが、20人の中で1つも質問していない人がいた。質問していない人は、どういう考えを持っていらっしゃるのかが読めない。そういう方に次回は積極的な意見を求めていただきたい。言いたい人だけ言うのではなく、そういう人にも発言の機会を与えて話をしていただきたいと思う。

【吉田会長】

加藤委員の言われたことは一理あると思う。次回は皆さんの意見を全般から聞いて、上手く進めていきたいと思っている

【鷺澤委員】

分科会について確認したい。3班に分かれて、1～20までの提案についてグループで自由に討論して、次に全体会でグループの意見交換をして、共通理解を得たり、質問事項について深めていくのは分かった。前回は、記録と発表の人は発言する機会がほとんどなかったもので、次回は記録係や発表係は決めるのか。

【野口係長】

やり方としては全体会で提案の1から順番に整理していくのがよいと思うが、相当時間が掛かると思う。効率よく運べるように、我々は分科会のほうがよいと考えた。全体会で発表するために書記や司会進行は必要だと思うが、要点だけを話すのであれば、細かく記録を取らずに、進行役が全体会で発表していただければよいと思う。

なお、全体会で意見などをまとめる必要はないので確認する。目的は、個人が採点するためのヒントにするための意見交換である。それぞれの意見を聞いて、自分で咀嚼^{そしゃく}して点数を付けるプロセスなので、全体会でまとめる必要はない。

【今井委員】

全体会だと時間も掛かるし、意見を言えない人も出てくるので、細かく分ければ皆が喋るだろうし、意見も出るということである。認識の違いを調整するくらいで足りると思うので、発表する必要もない気もするし、まとめなくてよい。各分科会も、1から20までの全事業について話す必要もなく、分からないことだけを話をすれば済むような気がする。

【佐藤委員】

分科会をするのは、普段喋りにくい私のような人が、何でも言える会だと思う。そこで出た意見を全員で共有するのは必要だと思う。春日区協議会としてどうするかを、最後には出さなければいけないと思うので、分科会でのことを話合った方がよいと思う。また、3班に分けるならば、記録、司会、発表は事務局にお願いできればよいと思った。そしたら、全員が意見を言えると思う。

【吉田会長】

今の佐藤委員の意見で、事務局は対応できるか。

【野口係長】

我々事務局は3人しかいないので、記録を付けるのが精いっぱいかと思う。1人で記録、司会はできないと思う。

【佐藤委員】

発表する人が記録をとるのがよいのかなと思う。人が書いたメモを見ながら発表するのは、なかなか難しいと思う。司会進行くらいは、委員でもよいが、記録と発表は事務局にお願いすればよいと思う。

【野口係長】

記録程度は我々がしてもよいが、発表まで加わっていくのは、どうなのかなと思う。それこそ会の主体はどこなのかなと思う。

【田沢委員】

もともとだと思う。

【山田センター長】

発表と意見交換の場をまとめるのが負担になるのは分かるが、そもそも協議会委員が主体性を持ってやっていただくための分科会である。メモを取ったり、発表するのが大変だとなれば、前に進まない。今後の自主的審議も難しくなるのかなと思う。手伝いたいのは山々だが、我々は客観的な立場であり、皆さんと同じ土俵に上がるのは難しいことはご理解いただきたい。

今、皆さんの話を聞いていて、それぞれの委員の思いを言ってもらいたい。意見交換を全体会の場で、皆さんで言っていたほうがよいのかなと思う。記録とかをなしにして、小さい輪の中で少しフリートークしていただき、その後全体会をしたらどうか。

【吉田実委員】

大切な情報を流すのは、全員に聞いてもらわなければいけない。1件あたりの時間を5分から10分に制限すればよい。また、発言しない人は議長が名指しして聞いたらよい。

【星野委員】

今回は、自分が採点するために、他人の意見を聞いたり、知っている人の補足説明を聞く。自分が採点するので、意見を集約する必要もないし、集約することは不可能である。採点結果についてどうするかを、次回詰めたほうがよいので、今回は全体でのフリートークがよいと思う。

【鷺澤委員】

私も全体会で意見交換で共有できるものはして、各々採点すればよいと思う。1件あたりの時間を決めていただき、意見や質問がなければ、どんどん進めていただいでよ

い。

【吉田会長】

決を採る。分科会のあとに全体会を行うか、全体会で行うか。

【加藤委員】

欠席したので分科会のあとに全体会をやるというイメージが湧かない。

【太田委員】

どちらでやるにしても、今日、質問事項を回答してもらったが、その回答について共通認識することも大切だと思う。自分たちの意見を言うことも大切だが、回答してもらったことについての理解が必要である。

【吉田会長】

全体会だけでよいと思う委員は挙手願う。

(過半数挙手)

それでは、全体会だけで行うこととする。

- ・ 次回の協議会：6月6日（火）午後6時から 上越市役所 4階 402・403会議室
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-5111（内線1449、1547）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。